

下記のとおり公募型プロポーザルを行いますので、公告します。

令和6年4月9日

豊田市長 太田 稔 彦



1 委託する業務

(1) 業務名 豊田市一般廃棄物処理基本計画策定業務委託

(2) 業務の概要

この業務は、令和8年度から令和17年度の10年間における、本市の一般廃棄物処理基本計画を策定するに当たり、計画を取りまとめるまでの策定作業を効率的かつ効果的に推進するため、策定作業上必要となる各種調査、計画の策定等を委託するものである。

(3) 履行期限 令和8年3月31日

(4) 提案限度額 15,000千円(消費税込み)

2 参加資格要件

次に掲げる条件を全て満たす者

(1) 公告日において、令和6・7年度の豊田市競争入札参加資格(物品等)を有するものであること。

(2) 地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の4第1項又は第2項の規定に該当する者でないこと。

(3) 会社更生法(平成14年法律第154号)に基づく更生手続開始の申立て又は民事再生法(平成11年法律第225号)に基づく再生手続開始の申立てをしている者でないこと。

(4) 参加表明書の提出日から当該案件の契約の相手方の決定までの間、本市から入札参加停止又は入札参加保留の措置を受けていない者であること。

(5) 参加表明書の提出日から当該案件の契約の相手方の決定までの間、本市と豊田警察署の間で締結している「豊田市が行う事務及び事業からの暴力団排除に関する合意書」に規定する排除の対象となる法人等に該当する者でないこと。

(6) このプロポーザルに参加表明書を提出しようとする者の間に、別表に定める資本関係や人的関係がない者であること。(資本又は人的関係に該当する者同士が辞退する者を決めることを目的に当事者間で連絡を取ることは、特に問題ない。)

(7) 公告日において、次に掲げる条件を満たす者であること。

ア 愛知県内に本店、支店、営業所又は事業所を有する者(ただし、(1)に掲げる豊田市競争入札参加資格者の名簿に登載されたものに限る。)

イ 平成26年4月以降、官公庁(国、地方公共団体、公社、公団及び独立行政法人に限る。)発注の業務で元請として1件当たりの税込金額500万円以上の下記のすべての業務の履行実績を有する者であること。

①一般廃棄物処理基本計画策定業務

②ごみ焼却施設に関する基本構想の策定に関する業務

ウ 業務の担当者として、技術士(衛生工学部門)を1名配置できること。

### 3 業務説明資料の交付

- (1) 交付期間 令和6年4月9日から令和6年4月22日まで（土・日曜日及び祝日を除く。）
- (2) 交付場所 豊田市役所環境部循環型社会推進課総務企画担当（清掃事業所）又は循環型社会推進課ホームページからダウンロード

### 4 参加表明書の提出及び参加資格の確認

- (1) 提出期限 令和6年4月22日（月） 午後5時まで
- (2) 提出場所 豊田市役所環境部循環型社会推進課総務企画担当（清掃事業所）
- (3) 提出方法 持参、郵送又はメール（提出期限必着）
- (4) 添付資料 参加資格要件（7）イが確認できる書類（契約書等の写し）

### 5 参加資格確認結果の通知

- (1) 通知期限 令和6年4月23日（火）まで
- (2) 通知方法 参加表明提出者にメール又は郵送にて行う。

### 6 質問の受付及び回答

- (1) 受付期限 令和6年4月22日（月） 午後5時まで
- (2) 受付方法 持参、郵送又はメール（受付期限必着）
- (3) 回答 令和6年4月30日（火）までに循環型社会推進課ホームページ（又は参加者にメール）にて行う。

### 7 提案書等の提出書類

A4サイズ片面6枚以内（見積書及び積算内訳書を除く。）に下記内容を記載（提出部数は正本1部、副本6部）副本については、社名及び社名を連想させるロゴ等を使用しないこと。また、表紙や目次のほか、本文中にも記載しないこと。

#### (1) 業務経歴

一般廃棄物処理基本計画策定業務及びごみ焼却施設に関する基本構想の策定に係る業務の実績一覧（業務名、発注者、請負金額、契約期間、業務の概要等）

#### (2) 業務担当体制

業務担当責任者、主任担当者等の資格、経歴、同種・類似業務実績、現在の手持ち業務

#### (3) 業務実施方針

実施方針、業務体制、具体的実施方法、重点項目、課題及びその対応等

#### (4) 本業務への提案や意見

ア 市民・事業者の意見を計画に反映させるための提案

市民や事業者の意見を把握・反映するための工夫などを提案する。

イ ごみの減量・資源化施策の提案

人口減少、高齢化社会、地球温暖化対策など社会を取り巻く状況を踏まえ、今後取り組むべき施策を提案する。

ウ 清掃事業の合理化の提案

次期ごみ焼却施設整備を始めとする施設整備方針や新たな技術の活用方針の検討方法

### 3 業務説明資料の交付

- (1) 交付期間 令和6年4月9日から令和6年4月22日まで（土・日曜日及び祝日を除く。）
- (2) 交付場所 豊田市役所環境部循環型社会推進課総務企画担当（清掃事業所）又は循環型社会推進課ホームページからダウンロード

### 4 参加表明書の提出及び参加資格の確認

- (1) 提出期限 令和6年4月22日（月） 午後5時まで
- (2) 提出場所 豊田市役所環境部循環型社会推進課総務企画担当（清掃事業所）
- (3) 提出方法 持参、郵送又はメール（提出期限必着）
- (4) 添付資料 参加資格要件（7）イが確認できる書類（契約書等の写し）

### 5 参加資格確認結果の通知

- (1) 通知期限 令和6年4月23日（火）まで
- (2) 通知方法 参加表明提出者にメール又は郵送にて行う。

### 6 質問の受付及び回答

- (1) 受付期限 令和6年4月22日（月） 午後5時まで
- (2) 受付方法 持参、郵送又はメール（受付期限必着）
- (3) 回 答 令和6年4月30日（火）までに循環型社会推進課ホームページ（又は参加者にメール）にて行う。

### 7 提案書等の提出書類

A4サイズ片面6枚以内（見積書及び積算内訳書を除く。）に下記内容を記載（提出部数は正本1部、副本6部）副本については、社名及び社名を連想させるロゴ等を使用しないこと。また、表紙や目次のほか、本文中にも記載しないこと。

#### (1) 業務経歴

一般廃棄物処理基本計画策定業務及びごみ焼却施設に関する基本構想の策定に係る業務の実績一覧（業務名、発注者、請負金額、契約期間、業務の概要等）

#### (2) 業務担当体制

業務担当責任者、主任担当者等の資格、経歴、同種・類似業務実績、現在の手持ち業務

#### (3) 業務実施方針

実施方針、業務体制、具体的実施方法、重点項目、課題及びその対応等

#### (4) 本業務への提案や意見

##### ア 市民・事業者の意見を計画に反映させるための提案

市民や事業者の意見を把握・反映するための工夫などを提案する。

##### イ ごみの減量・資源化施策の提案

人口減少、高齢化社会、地球温暖化対策など社会を取り巻く状況を踏まえ、今後取り組むべき施策を提案する。

##### ウ 清掃事業の合理化の提案

次期ごみ焼却施設整備を始めとする施設整備方針や新たな技術の活用方針の検討方法

を提案する。

エ 計画策定における推進・進行管理体制の提案

別添「仕様書（案）」第8作業スケジュールを基に計画を策定するための方策や管理手法等について提案する。

オ その他の提案

上記のほか、仕様書（案）に対する提案など計画策定に関し自由に提案ができるものとする。ただし、提案を採用し仕様書を変更した場合においても提案限度額は変更しない。

(5) 工程計画

(6) 見積書及び積算内訳書（1部）

8 提案書等の提出期限等

(1) 提出期限 令和6年5月10日（金） 午後5時まで

(2) 提出場所 豊田市役所環境部循環型社会推進課総務企画担当（清掃事業所）

(3) 提出方法 持参又は郵送（提出期限必着）

(4) その他 参加表明書の提出後に提案を辞退する場合は、提案書等の提出期限までにその旨を文書（様式自由）に記載し、持参、郵送又はメール（提出期限必着）により提出すること。

9 ヒアリング

(1) 開催日時 令和6年5月20日（月） 午前9時から午前11時30分までのうち指定する25分間（時間は後日連絡する。）

(2) 開催場所 豊田市役所東61会議室（東庁舎6階）

(3) 備考 ア 提出された企画書等に基づき1社25分（説明10分、質疑応答15分）のヒアリングを行う。

イ プレゼンテーション及びの質疑応答は、参加者名を伏せて行うので自己紹介は行わないこと。

ウ 出席者は3名以内とする。

エ 全参加者のヒアリング終了後、引き続き選考委員会を実施する。

オ 新型コロナウイルス等の感染状況によっては、ヒアリングの方法を変更する可能性がある。その場合は、WEB会議が可能であるZOOMミーティングを使用する予定であるため対応できるようにすること。

10 評価基準

(1) 下記項目のうち、ア及びウを事務局が採点し、イを選考委員が採点する。事務局の採点結果と各選考委員の採点結果の合計が最高得点の者を最優秀提案者として選考する。ただし、あらかじめ定めた最低基準点以上の者とする。

ア 業務経歴等（18点）【事務局評価】

(ア) 企業の業務実績（6点）

(イ) 業務担当体制（12点）

イ 業務実施計画等（72点）【選考委員評価】

（ア）業務実施方針、提案・意見（64点）

（イ）工程計画（4点）

（ウ）取組意欲（4点）

ウ 事業コスト（10点）【事務局評価】

※評価点（600点）＝ア（業務経歴等（18点））＋イ（業務実施計画等（72点））＋ウ（事業コスト（10点））×6人

※詳細は別紙「評価基準」のとおり

（2）最高得点者が同点の場合は、見積金額の安価な者を最優秀提案者として選考する。

（3）提案者が一者の場合でも、最低基準点に達しない者は最優秀提案者として選考しない。

（4）選考は以下の6名の委員により行う。

学識経験者（大学教授）

環境部 専門監（清掃担当）

環境部 環境政策課 課長

環境部 循環型社会推進課 課長

環境部 清掃業務課 課長

環境部 清掃施設課 課長

1.1 選考結果の通知及び契約

（1）選考結果通知（予定）日 令和6年5月22日（水）

選考結果通知後、最優秀提案者と仕様書の協議を開始する。

（2）契約（予定）日 令和6年6月20日（木）

プロポーザル後、契約の相手方として決定された者に、別途、契約課から見積書提出を依頼する予定。

最優秀提案者との協議の進捗により、変更となる場合がある。

1.2 その他

（1）このプロポーザルに参加する費用の全ては参加者の負担とする。

（2）手続で使用する言語及び通貨は、日本語及び日本国通貨に限る。

（3）次にあげる提案は無効とする。

ア 本公告に示す参加資格を有しない者がした提案

イ 見積金額が提案限度額を超える提案

ウ 提案書等に虚偽の記載をした者の提案

エ 市が示した条件に違反した提案

オ 選考委員に故意に接触を図った者その他選考の公平性に影響を与える行為をした者の提案

（4）提出期限後は提出された企画提案書等の差替え又は再提出は認めない（本市から指示があった場合を除く）。

（5）提出書類は返却しない。なお、豊田市情報公開条例（平成10年条例第34号）の規定に基づき、提出書類を公開することがある。

- (6) 最優秀提案者と本市との間で契約条件に関する協議を行い、最終的な仕様書を作成する。  
仕様書作成後、最優秀提案者を契約の相手方とし、見積徴収の上、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号により随意契約を締結する。また、この協議において、最優秀提案者からの企画提案書の内容の変更は、原則として認めないものとする。
- (7) 最優秀提案者特定の日から契約締結の日までの間に次のいずれかに該当するときは、随意契約を行わない。なお、契約が不調に終わった場合は、最優秀提案者の次点の者と交渉するものとする。
- ア プロポーザルの参加資格要件に適合しなくなったとき
  - イ 提案に関する書類に虚偽の記載をしたことが確認されたとき
  - ウ 契約条件に関する本市との協議が調わないとき
  - エ 最優秀提案者が委託事業を遂行することが困難であると、本市が判断したとき
- (8) 前号の場合を除き、選考結果通知後の辞退は認めない。なお、受託の辞退等により本市に損害が生じた場合は、その費用を請求する場合がある。
- (9) 本契約の履行結果が優良な場合、令和7年度まで本契約に直接関連するごみ処理施設の整備に関する基本構想等の業務について、本業務の契約の相手方と随意契約により締結することがある。

**【問い合わせ先（提出先）】**

〒470-1202 豊田市渡刈町大明神39番地3

豊田市環境部循環型社会推進課総務企画担当（清掃事業所）

電話 0565-71-3001（直通） FAX 0565-71-3000

メールアドレス junkan@city.toyota.aichi.jp

別表

資本関係又は人的関係について

<p>(1) 資本関係</p>	<p>① 子会社等（会社法（平成17年法律第86号）第2条第3号の2に規定する子会社等をいう。②において同じ。）と親会社等（同条第4号の2に規定する親会社等をいう。②において同じ。）の関係にある場合</p> <p>② 親会社等を同じくする子会社等同士の関係にある場合</p>
<p>(2) 人的関係</p>	<p>① 一方の会社等（会社法施行規則（平成18年法務省令第12号）第2条第3項第2号に規定する会社等をいう。以下同じ。）の役員（会社法施行規則第2条第3項第3号に規定する役員のうち、次に掲げる者をいう。以下同じ。）が、他方の会社等の役員を現に兼ねている場合。ただし、会社等の一方が民事再生法（平成11年法律第225号）第2条第4号に規定する再生手続が存続中の会社等又は更生会社（会社更生法（平成14年法律第154号）第2条第7項に規定する更生会社をいう。）である場合を除く。</p> <p>1) 株式会社の取締役。ただし、次に掲げる者を除く。</p> <p>イ 会社法第2条第11号の2に規定する監査等委員会設置会社における監査等委員である取締役</p> <p>ロ 会社法第2条第12号に規定する指名委員会等設置会社における取締役</p> <p>ハ 会社法第2条第15号に規定する社外取締役</p> <p>ニ 会社法第348条第1項に規定する定款に別段の定めがある場合により業務を執行しないこととされている取締役</p> <p>2) 会社法第402条に規定する指名委員会等設置会社の執行役</p> <p>3) 会社法第575条第1項に規定する持分会社（合名会社、合資会社又は合同会社をいう。）の社員（同法第590条第1項に規定する定款に格別の定めがある場合により業務を執行しないこととされている社員を除く。）</p> <p>4) 組合の理事</p> <p>5) その他業務を執行する者であって、1) から4) までに掲げる者に準ずる者</p> <p>② 一方の会社等の役員が、他方の会社等の民事再生法第64条第2項又は会社更生法第67条第1項の規定により選任された管財人（以下単に管財人という。）を現に兼ねている場合</p> <p>③ 一方の会社等の管財人が、他方の会社等の管財人を現に兼ねている場合</p>
<p>(3) その他プロポーザルの適正さが阻害されると認められる場合</p>	<p>組合（共同企業体を含む）とその構成員が同一のプロポーザルに参加している場合。その他上記（1）又は（2）と同視しうる資本関係又は人的関係があると認められる場合。</p>